

なほ

1月号
vol. 083

謹賀新年



まちの居場所

～サランバンの取り組み～



キム・チュンジャ
金春子さんに聞く



数年前、金春子（キム・チュンジャ）さんから民団（※1）についてお伺いしたのを契機に、西成韓国人会館へ訪問したり、私たちが主宰する楽塾へ金さんにも参加していただいたりして、さまざまな場面でお会いしてきました。現在は、高齢の在日コリアンへのデイサービス活動をされており、その現場「西成サランバン」での取り組みのひとつ「イキイキ体操教室」に参加し、地域の人たちと一緒にトレーニングを体験させてもらったこともあります。

「西成サランバン」は2003年、地域に暮らす高齢者の介護予防や通所介護を通し、西成韓国人会館で居場所づくりとしてスタートした通所介護事業「ふれあいデイサービス」にさかのぼります。金さんが関わり始めたのは翌年の2004年からでした。

金さんは在日コリアン2世で、ルーツは慶尚南道だそうです。よく2世3世と呼ばれます。

ですが、一般的には韓国併合時代、そして戦後にかけて日本に渡航し、定住（※2）した世代が1世で、その子どもたちは2世と続きます。現在、帰化などで、在日コリアンとしての数は年々減り、とくに文化も言語も違う異国に送られてきた1世の世代は高齢化し、地域で穏やかに暮らすための取り組みが求められています。

訪問した西成韓国人会館は、西成サランバンと民団西成支部の拠点となっており、地域の文化交流会やテコンドー教室、韓国語教室や韓国料理教室なども開かれます。在日コリアンをはじめ地域にも開かれた居場所として、一つひとつ取り組みを積み重ねているようです。

今回の特集は、西成韓国人会館におじゃまし、金さんのサランバンでの介護予防事業や地域での高齢者の応援について、いくつかのエピソードを聞かせていただきました。

※1：在日本大韓国民団の略。日本に定住する在日韓国人と韓国系日本人のための生活者団体。日本国内に約300の支部があり、在日韓国人の生活支援サービスや、文化事業などを行う。

※2：一般的には、韓国・朝鮮籍特別永住資格を得た者。在日コリアンをはじめ、在日韓国人・朝鮮人、あるいは略して在日と呼ばれることもある。

リラックスできる居場所

佐：あったかいですね。ここがサラバンでデイサービスや教室などを開いている部屋ですね。
金：そう、ここはフローリングに床暖房が入っているので、冬は温かいです。韓国ではオンドルが一般的ですからね。

佐：暮らしの伝統文化ですね。そのサラバンですが、事業をやるうえで、したいきさつは何でしたか。
金：「ふれあいデイサービス」(※3)がきっかけとなって、通所介護事業を申請しました。在日コリアンの方たちの「他の施設などに行っても言葉や風習が違うので気を使うから」という気持ちを大切に、社会福祉法人「ハナ集いの家」の施設として、地域を拠点にした「西成サラバン」を民団本部・西成支部とが協力して発足させたのです。他支部に先行した初めての取り組みでした。

佐：とくに1世の高齢者たちにとって、日本のあらゆる場所の文化
金：「なげ介護事業所に行くの、ストレスを感じなければいけないのか？」とが、「日本の文化や環境になじめない」という人たちがいます。そんな声は、サラバン発足の動機になっていると思います。まずは自分たちがリラックスできる居場所づくりが必要だったのです。
佐：サラバンができて10年が経ちますね。
金：最初は手探りでした。利用者に関わりながらやってきました。

金さんは民団西成支部の前に、支部で勤めていました。地域の高齢の民団員たちが毎日支部を尋ねてきたり、遊びにきたり、小さな相談コーナー、

となり近所の助け合い

佐：サラバンのように身近に開かれた場所だと、日常生活レベルでの相談も多いと思います。
金：ガスがつかないと連絡があり家に訪問したり、家の戸が開きにくいといったは大工道具を持って修理したり、電話が使えないというので行ってみるとコードが外れていた(笑)、頼まれるとどんな小さなことでも対応してきました。でも、最近は大丈夫だとそんな相談は少なくなってきたというようです。
佐：まさに人と関わる原点ですね。ここサラバンには、いろんな飾りや絵などの作品があります。みなさんでつくられているのですか。

や土壌の違いは、常に違和感があったと想像します。

金：「なげ介護事業所に行くの、ストレスを感じなければいけないのか？」とが、「日本の文化や環境になじめない」という人たちがいます。そんな声は、サラバン発足の動機になっていると思います。まずは自分たちがリラックスできる居場所づくりが必要だったのです。
佐：サラバンができて10年が経ちますね。
金：最初は手探りでした。利用者に関わりながらやってきました。

金さんは民団西成支部の前に、支部で勤めていました。地域の高齢の民団員たちが毎日支部を尋ねてきたり、遊びにきたり、小さな相談コーナー、



金：いろいろな人に教えてもらいながら、利用者の方たちと一緒に節気に合わせた飾り付けなどをしていきます。あと、ちょっとしたライブなども。歌や踊りを交えながら、楽しくやっています。故郷的な居場所として、ごくごく普通に関われる居場所として、気兼ねなく参加できるサラバンになればと思います。
これまでは異国同様の生活の中で、「韓国人会館」という名の「故郷」が身近にあることで、「コミュニティの場としての相談ことや、同胞の集いが可能な居場所的役割を果たしてきたのだと思います。近年は、暮らしの細分化がそれぞれの役割を明確化し、何よりもお金の制度で解決できるマーケットの定着が、人間同士

ともに対応するのが日課になってきたと話します。2004年に西成に移り、西成支部でヘルパーの資格を取って、本格的に介護の仕事に向き合うようになりました。

お茶を出しながらじっくり話を聞く。身近な人たちのつばやきや相談に耳を傾ける。そんな一つひとつを丁寧に応えてきた金さんの積み重ねが、現在の活動のベースに大きな役割を果たしていると感じました。

制度と文化のはざま

佐：これまでの印象的な取り組みを教えてください。
金：いろいろな人たちに教えてもらいながらヘルパーの仕事覚えていきました。介護の現場では、自分の「親」を目に浮かべ、また思い出して、共感や同情の気持ちを湧かせたりしてきました。それから、地の

の断絶を招いてきているのかもしれない。これは在日コリアンだけの問題ではないのでしょうか。だからこそ、金さんは言います。「隣近所で助け合うことが大事なことだと思います。」と。
サラバンは在日コリアンだけではなく日本人も利用します。いわばルーツの違う人たちが寄り合う場所。サラバンとは憩える場という意味(※4)もあるらしいのですが、金さんはそんな居場所の大切さについても私に語ってくれます。

インタビュー自身、幼い頃から今に至るまで、韓国をルーツとする多くの友人知人たちと交わり、また、現在もおつきあひがあります。特別な反響意識や排斥などという感情が薄い現在のヘイトスピーチや、暴力行為に違和感を覚えてしまうのです。私がそのような行為をする彼らに

域の人たちが気軽に声をかけてくれたので、心丈夫でしたよ。

日本の制度や仕組みは、在日コリアンにとっては不慣れでも扱いがたい面もあって、そんな相談が民団に寄せられます。例えば結婚、離婚、就労、就学、帰化、介護保険など申請に関することはとてもややこしいです。名字の改名などで、領事館に申請することもあり、日本人の人たちが普通に行っていることや、やらなくてもいいことなど、在日コリアンにとっては重荷になったりします。そんな相談ごとに対処してきました。

また、宗教的な儀礼を重んじる人たちも多く、韓国では紙幣(チバン)といわれる戒名や法名などの形式についての相談も多くありました。そんなときは例文集をひも解いて、書き方を教えたりします。とにかく生活全般にわたって相談に乗っています。

佐：現在とくに金さんの課題となっていることについて教えてください。
金：介護制度などの細かいルールの断絶を覚えるように、彼らが私や在日コリアンに違和感を覚えるとしたら、その源泉はどこにあるのだろう。そして、その一つにひよつとしたら彼らもまたマイノリティーなのではないかと気がつきました。自分たちの寄って立つ場所の不在、他者の痛みを許容できない想像力の薄さ、歴史から学ばない無自覚さを持つそんな弱者たちが、同じ弱い者たちを標的にする。ますます自らを孤立に追いやるのです。

同じマイノリティーである在日コリアンは、わが国の部落解放や障がい者運動などと同様に、長い時間をかけそんな偏狭な困いを克服し、しかしながら今もその途上にあります。金さんと話をするとき、彼女の会話や佇まいから、すべてを受け入れようという気持ちがあり、わかるのを感じてしまうことがありますが、それは諦念や虚無などではなく、金さんのような寛容な心を持った人たちが、たくさんいたからだと想像するのです。
(記録：平川 監修：佐々木)

※3：高齢者が要介護状態にならず、住み慣れた地域で自立した生活を続けられるよう、介護予防活動・趣味活動・給食等の日帰りのサービス提供を行う事業。

※4：サラバン(사랑방 舍廊房)。客間のこと。家主の居室であり、ときに客人と囲碁や楽器などを楽しむ生活空間。

【平川隆啓】昨年4月のリニューアル時に出したコンセプトは「互助」。今年も「なび」がいりんなつながりのきっかけになりますように！

【田岡秀朋】年賀状を作成していると、「子どもの写真ばかりは卒業したら」と義母のアドバイス。親バカを少し改め、今年は子どもが描いたイラストで。。バカ親につける薬、知りませんか？今年もよろしくお祈いします。



サウスオプミナミ

vol.10

カラフル！国際的！おいしいたのしい西成シーン

大阪のうまいコナモンだけじゃない！西成には、韓国、中国、沖縄料理の美味しいお店や、そこに集う多国籍な交流、いろんな産業や文化まで国際色&地域色豊かに楽しめます。最近、ゲストハウス、シェアハウスなど、衣食住幅広いシーンが緩やかに行き交う西成。今回は、ニシナリ版シルクロード！？を歩いてみました。



もちろんたこ焼きも！

ゲストハウスも
113 113



いろんな中小企業が集まります



真っ赤なキムチなどなどコリアンフード



ジューシーホルモン！お肉もいろいろ



天下茶屋駅

▲ライブ
摩訶不思議な楽しいライブもいろいろ！あるときはエキゾチックに、あるときはエスニックに！



ヘルシー漬物、伊勢からやってきました

観見橋商店街
お店も
113 113



豊富なメニューの中華も



カラフル韓国グッズ！



大阪といえばお好み焼き！

▲グルメ
コナモン、韓国、中国料理をはじめいろんなご当地&伝統グルメがいっぱい！おいしい西成を堪能♪



各国から西成にきています！

林之茶屋駅



ご当地！？おでん、野菜天がおすすめ

文化も
113 113



真夜中の路上パフォーマンス！



大衆演劇、盛りだくさんの舞台上で異世界へ



艶やかな色彩！色街の文化も

▲クリエイティブ
シューズ、革、ボルト、ナットなどまちを歩けばいろんな看板が。工場の他にも、靴づくりを学べる学校も。

▲ライフスタイル
ゲストハウス、シェアハウスの新定番？！いろんな文化に触れながらリーズナブルに暮らせます。



リレーなびトーク No.10
「西成ではたらくママとパパたち」

プロフィール



関口淑枝
20歳と17歳の子どものママ。地域の子育てを応援する毎日を送って十数年！子どものころから西成の路地で遊びまわったパワフルママ。



竹中伸五
社会人の娘と大学生の息子のパパ。子育ての時期は関東に。ナイスで西成のまちを飛び回るドラムとバンドウォッチングが趣味の多彩なお父さん。

い湯かげん

社会運動の再生に期待する

一年の締め括りが特定秘密保護法の強行採決とは、いかにも象徴的だった。これが安倍政権であり、いまの国会であり、これが来年、再来年と続くのだ。やっぱり、日本はアメリカで動くのかな……。背景にどす黒い野望があり、危険な政治潮流がある。もちろん、それはそうなんだが、政権交代の失敗のツケも大きい。朝日や毎日が強い論調で警鐘を乱打したのはせめてもの救いだ。ヘイトスピーチも「人権の隙間」をついた輩行だが、さすがに裁判所が止めてくれた。


いまは年の初め、熟慮の時間だ。秘密保護法で痛感したのは

「個人」の弱さ、そして「世論」が選挙という空間でタイムラグを起こすというジレンマだったはず。ヘイトスピーチでは、辛淑玉さんたちは素早かったと感心した。国家(体制)と個人の「中間」に位置する社会運動の役割がそこにあるし、世論という無形のものを形にできる「中間団体」の存在価値がある。

しかし、世の中、残念ながら螺旋階段のようにしか動かない。その中間団体に重篤な過誤が生じ、個人からは、体制に近い反目に見えたのが、公務員や電力会社や大企業の労働組合であり、同和行政を巡る解放同盟の失敗だった。その自浄が遅れる分だ

「個人」の弱さ、そして「世論」が選挙という空間でタイムラグを起こすというジレンマだったはず。ヘイトスピーチでは、辛淑玉さんたちは素早かったと感心した。国家(体制)と個人の「中間」に位置する社会運動の役割がそこにあるし、世論という無形のものを形にできる「中間団体」の存在価値がある。

しかし、世の中、残念ながら螺旋階段のようにしか動かない。その中間団体に重篤な過誤が生じ、個人からは、体制に近い反目に見えたのが、公務員や電力会社や大企業の労働組合であり、同和行政を巡る解放同盟の失敗だった。その自浄が遅れる分だ



楠ナイス代表取締役
富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

2014年、最初のリレーなびトークは、ホスト竹中さんと、ゲスト関口さんです。お二人とも西成の西と東を行き来しながら仕事に子育てに。今回は、コッルームであったかいコーヒーとホットしそジュースを飲みながらお話をしました。

- **関口**：竹中さんとはじめて会ったのは10年以上前。
- **竹中**：でも、実は関口さんのことはあまり知らなくて。今は何をしていますのですか？
- **関口**：西成の子育て支援です。「つどいの広場事業」で、主に就学前で在宅で子育てしている親子が遊びにくる場、相談にくる場、情報提供や講座なんかもしています。
- **竹中**：僕の場合、生活の場が西成でなかったのも、西成の子育て支援など無関心なところも正直あって。でも最近、地域で仕事をやっている、たとえばお母さんがもっと働けるようなサポートも考えるようになってきた。
- **関口**：仕事で手が放せないときに「子どもを迎えに行きたるわ」と言ってくれるような、ちょっとした手助けがあれば「子育てネット」で訪問事業を立ち上げました。
- **竹中**：仕事をしていると、なんでもボランティアではなく、事業の先につなげていくこともドライに考えないといけないことも。
- **関口**：仕組みやお金の問題。ボランティアがすべて無償では続かない。ほんのちよつとの地域の助け合いがお互いいい関係で復活していくような流れにしたいですね。
- **竹中**：こういうのって、将来展望が見えないと、なかなか具体像が描けませんよね。でも、意識をもって関わっていると、いろいろな立場や責任が出てきて、どこかでシビアになってくる。「想い」だけで動くと、せつかく地域で培ってきたものがふきとぶんじやないかな。
- **関口**：逆に、地域で前向きにこうしよう！と思うとこ

ろを伸ばしていくような。あと、トラブルが起きたときにチャンスで、当事者にしろ、支援者にしろ、そのときどんな気持ちか？何ができるのか？知識としてちゃんと組織や地域でシェアしていかないとあかんと思う。

- **竹中**：人を巻き込みながらやくなっていくのは苦労するけど、大切ですよ。
- **関口**：そうですね。外とつながって気づいたり、知ることいっぱい。自分の力にもなりますしね。
- **竹中**：あと、孤立が問題視されるなか、疑似家族や大家族という考え方で、コミュニティの中での新たな家族をつなげていく動きが大切と感じます。子育てという場面で考えると、シェアハウスというの考えられないかな。
- **関口**：アメリカでは、虐待リスクの高い家族は、地域のおじちゃんおばあちゃん世代といっしょに暮らすことで、関係構築をめざす取り組みがあります。西成からシェアハウスを広げるのは面白そう。
- **竹中**：変わることも、広げることも大変。でもやらないといけない。地域で仕事をしていて、そう思います。最後に、関口さんの2014年の目標は？
- **関口**：いまいろいろ取り組んでいることをきちんと研究して具体化していきたいですね。
- **竹中**：私は、仕事のいろんな責任が出てきているなか、地域のビジョンを描きながら、乗り越えていきたい。あと、もう少し余裕をもって、こんな風にいろんな話をする機会や、プライベートな時間も楽しみながら、プラスにしていきたいですね。

今回はホストを関口さんへバトンタッチ！



【四井恵介】昨年末、動物園前商店街で寿司を食べ、その足で西成ジャズを見てきました。今年も西成を満喫できるような地域の魅力を発掘、創造していくお手伝いができれば。



【飯田沙保里】今月から我が家は旦那の単身赴任が始まりました。関東弁になって帰ってきたらどうしようかと今から戦々恐々です。



【高橋静香】あけましておめでとうございます！年々、1年過ぎるのが早くなっていきます。新年最初の楽しみは、神社でいただく甘酒です！



撮影場所：まちの花屋さんBON（ボン）
就労支援と花のあるまちづくりをめざし、
5つの団体が連携したLLPで運営。

都会の軒先で、お正月の準備

12月の暮れ、まちかどの小さな花屋の前で門松づくり。砂を水で固めながら、3本の竹をバランスよく立てていくと、いつの間にか立派な門松に。年始を過ぎると、「とんど（※）で燃やして、正月に超越しになった神様をお見送ります。そんな年の初めを迎えるための小さな習わしが都会の軒先で行われていました。

文・写真：平川隆啓

※別名、どんど、とんど焼き、左義長など

ピースのつぶやき



「今年もよろしくワンワン!!」

大きな声で ワンワン
元気に吠えていた。
大きな口で パクパク
いっぱい食べていた。
たくましい足で ズンズン
前へと歩いていった。
たくましい身体で フリフリ
陽気に踊っていた。
優しい瞳で ジーっと
何かを見つめていた。
優しい気持ちで ポカポカ
心が温かくなっていた。
素敵な笑顔で ニコニコ
楽しく笑っていた。
素敵な出会いで ドンドン
友だちがふえていた。
2014年のお正月
そんな初夢を見た私。
まさ夢になればいいナ：
ワンワン!!

赤井まゆみ



【おわびと訂正】

12月号「ピースのつぶやき」のタイトルが脱落していました。タイトルは「コタツムリ」です。校正ミスをおわびいたします。写真のピースは「コタツムリ」そのものです。編集長から赤井さんにおわびいたします。

枝葉末節

二つの金閣寺2 水上勉と三島由紀夫



hidarimaki こと々々木です。
充実ではなく自分に忠実
幸福ではなく不幸でもない
孤立は嫌い孤独が好き
また再びの新年を迎え
みんなでおなじみを楽しみたい

水上勉の「金閣炎上」(2)

『金閣炎上』の語り手は私、すなわち水上である。水上の身体を駆使してこの事件の態様を語るのだから、そこには、冤罪者の無念を晴らすかのような執念と、事件の末端までを見逃すまいとする同情的な視線があり、求道僧のような姿勢が伝わってくる。

『金閣炎上』は、端正で生真面目な筆致に加え、関係者の聞き取りや調査報告など当時の記録も挿入され、ドキュメントとして、或いは心理小説の緊迫感も味わえ、また優れた推理小説としても楽しむことが出来る。

この小説で、養賢が金閣寺を放火する数日前、西陣の五番町の妓楼で、ある娼妓とかかわるエピソードが挿入されている。

ドが挿入されている。この挿話を膨らませたのが、やはり水上の『五番町夕霧楼』であった。しかし膨らませたというのは私の思い違いで、この作品は『金閣炎上』に先行する1963（昭和38）年に発表されていたことがわかった。『五番町夕霧楼』は、その後続く『金閣炎上』を描くための壮大な伏線として構想されていたのかもしれない。この小説で正順という青年僧は、名前こそ違え養賢そのものである。放火した金閣寺（この小説では風閣寺）の火を、妓楼から眺める女の不安が哀れであった。

『金閣炎上』は、この事件の経緯から頭末までを、筆者の養賢への共感と同情を水脈とし、もう再び誰も探そうとはしない彼の墓の前に、養賢が語らなかつた言葉、声を失った暗い沈黙を、水上の真摯な想像力で補った作品であった。ついに良き運命（さだめ）を味方に出来ず、夢を怒りに代え死んでいった無念の僧に、鎮魂を込めて救済を施そうとした小説だといえる。それは、とりもなおさず水上の貧しく辛い幼年時代に加え、苦行を強いられた青年僧であったころの怒りや悔恨を、養賢に託した小説ともいえるのではないだろうか。



か。世に這い上がりきれない名もなき男や女たちの苦悶とあえぎ、そして時代と社会の歪みを背景とし、確かな筆力で歴史を描く。伝承の作家でもあった。ところで金閣寺焼失についてのテーマは、水上作品をさかのぼる1956年に三島由紀夫が『金閣寺』を著した。私はこの作品がとても好きだ。次の項では同じ金閣寺を唯美的視点で描いた三島の『金閣寺』を紹介してみたいと思う。

三島由紀夫の『金閣寺』(1)

1970年10月。三島由紀夫は桶の会と共に東京市ヶ谷の自衛隊駐屯地に侵入し、あっけにとられる自衛隊員に敵を飛ばして割腹自殺をした。この日、私は職場で作業しながら、このラジオ実況中継を聞いていた。私は、三島の動皇思想に反発する反面、文学者とし

ての三島には興味を持っていて、『金閣寺』はその頃に読んだ小説だった。水上勉が著わした『金閣炎上』の20年以上も前、三島由紀夫は『金閣寺』（56年新潮社刊／60年新潮文庫・写真）を著わした。それは青年僧が金閣寺を放火した6年後の間もない頃だ。三島は「私にとって、敗戦が何であったかを言っておかなければならない。それは解放ではなかった。断じて解放ではなかった。不変のもの、永遠なもの、日常の中に溶け込んでいる仏教的な時間の復活に他ならなかった」と主人公である青年僧に語らせている。

金閣寺が空襲で焼失するという期待を持ちながら、その期待に背いて、金閣が面前に常のごとく起立していた姿を見た青年僧の感慨である。久遠の金閣寺の姿は敗戦で再び甦る——異文化と猥雑さを引き連れて日本という国の中へ——。永遠の一回性として、金閣寺という美とともに消滅するはずの主人公にとってそれは解放ではなく、失意であった。金閣寺という美神を自らに所有することを望み、伝統の喪失を値る主人公は三島自身でもあった。（この項次号に続く）

hidarimaki

思ったら! にしなりカレンダー

新春チャレンジ!

音を奏でよう!

ブレーカープロジェクト 「子どもオーケストラ」コンサート

— 西成区民おとな出演者募集! —

芸術と社会をつなぐブレーカープロジェクト。今回は、西成区内の児童館や小学校と、音楽家・大友良英の「集団即興オーケストラ」のためのワークショップを開催。その成果発表としてのコンサートを開催するにあたり、子どもたちとともに出演するおとなの方を募集します!

ワークショップ

日時・場所:

1月18日(土) 18:00-19:30

西成区役所4階会議室(岸里1-5-20)

2月1日(土) 14:30-16:30

西成区民センターホール(岸里1-1-50)

2月8日(土) 14:30-16:30

西成区役所4階会議室(岸里1-5-20)

講師: 大友良英(音楽家)ほか

対象: 大学生以上の西成区在住・在勤の方優先、
楽器を持参でき、ワークショップに最低
1日以上とコンサートに参加できる方。

定員: 30名(要予約・先着順・無料)

コンサート

日時: 2月11日(火・祝) 15:30-17:00

場所: 西成区民センターホール(岸里1-1-50)

お問い合わせ

ブレーカープロジェクト実行委員会事務局
TEL: 070-5046-8667 (11時から19時)
MAIL: info@breakerproject.net
http://breakerproject.net/

公園であそぼう!

「あそび in 西成公園」—くうねるあそび—

にしなりあそびパーク☆Project、新年第一弾は西成公園で「くうねるあそび」をテーマに野外体験で思いっきり遊びます。料理や防災、地域の人との交流など楽しく盛り上がりましょう!

日時: 1月19日(日) 11:00-14:30

場所: 西成公園(津守1-13)

お問い合わせ: わが町にしなり子育てネット

「にしなりあそびパーク☆Project事務局」

(今池こどもの家内)

TEL/FAX: 06-6632-7020

http://haginet.2.pro.tok2.com/asopa.html

身近な曲をたのしもう!

「新春コンサート in にしなり」

みんなが知っている曲を吹奏楽の演奏で。指揮者体験コーナーや「にしなり人情うた」の紹介、スーパーボンボコジャガビーにしなりくんの登場など、盛りだくさんの新春コンサートです!

日時: 1月11日(土) 14:00 - (13:30開場)

場所: 西成区民センターホール(岸里1-1-50)

定員: 300名(申込み先着順)

参加費: 一人500円(未就学児は無料・赤ちゃんの参加も可能です!)

主催: 西成区民センター 協力: 西成区役所

お問い合わせ: 西成区民センター

TEL: 06-6651-1131

あとがき

新年あけましておめでとうございます。

2014年はソチ五輪、ブラジルW杯とスポーツのイベントが目白押しです。サッカー小僧だった僕の初記憶のW杯は1986年メキシコ大会のマラドーナ。これからサッカー小僧?になろうとする長男の記憶に残る選手が出るのか楽しみです。長らくお昼の顔だったタモリも引退。さてさて、次代のスターが生まれる年になるのでしょうか。今年も“なび”をよろしく願います!! (田岡)

なび1月号(vol.83)

発行日: 2014年1月10日(創刊日: 2007年1月1日)

発行: 株式会社ナイス

発行人: 代表取締役 富田一幸

印刷: 有限会社前山企広

住所: 大阪市西成区長橋3-6-33 電話: 06-6563-1156

E-mail: info@nice.ne.jp url: http://www.nice.ne.jp/

編集長: 佐々木敬明

編集・表紙写真撮影: 田岡秀朋、平川隆啓、四井恵介、飯田沙保里

イラスト: hidarimaki

デザイン: 高橋静香

(表紙の写真は「コクルーム」で撮影しました。)